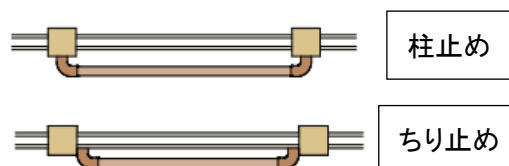
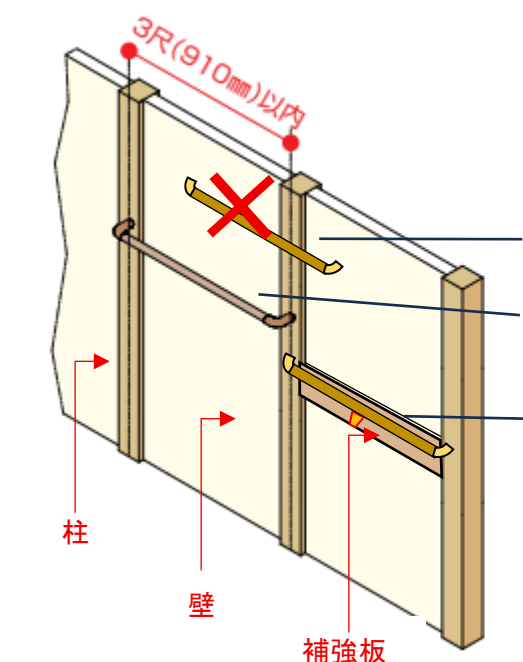


住宅改修の施工に関する基礎知識 (2)

○ 手すりの取り付け

壁に手すりを取り付ける際には、**壁の内部がどのような構造になっているのかを知る必要があります**。もっとも一般的な建築様式である木造軸組み工法では、主に和室の壁など和風の仕上げに用いられる柱が通常見える「真壁(しんかべ)」と、洋室や洋風の仕上げに用いられる柱が通常見えない「大壁(おおかべ)」に分けることができます。また、浴室では旧来、仕上げにタイルを貼る方法が用いられていましたが、現在では浴室の床や壁と浴槽や水栓などの設備機器をユニット化したユニットバスが主流です。タイルを貼る方法やユニットバスの壁構造にも複数の種類があり、それらに合わせた製品や施工方法の選定が必要です。

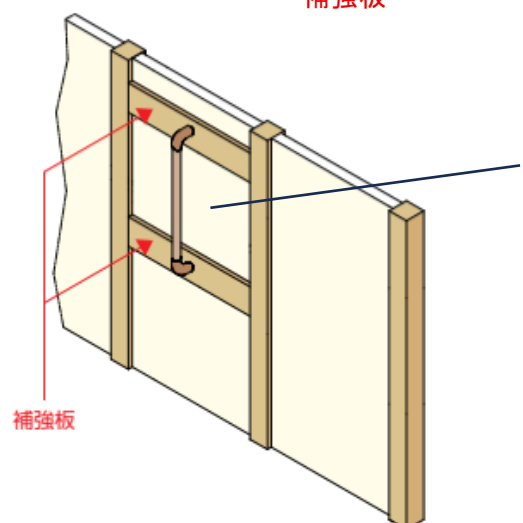
1. 真壁の場合



壁に直接手すりを固定することはできません

柱に手すりを固定します

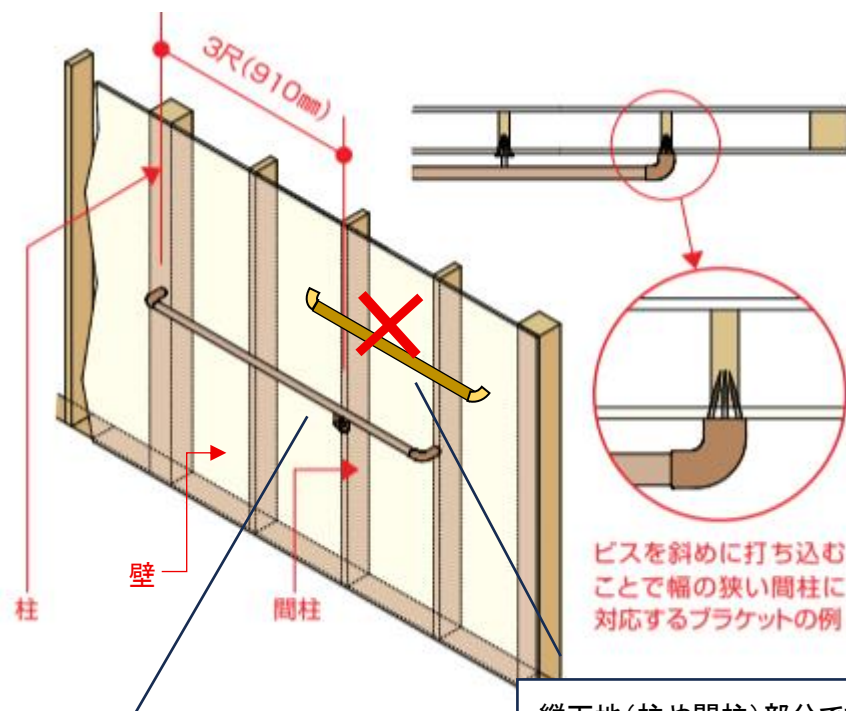
使用する手すりの種類や柱の間隔によって、柱の間に留め金具や、補強板が必要となる場合があります



柱以外の壁面に縦手すりを取り付ける場合は、補強板を柱に固定し、補強板に手すりを固定します

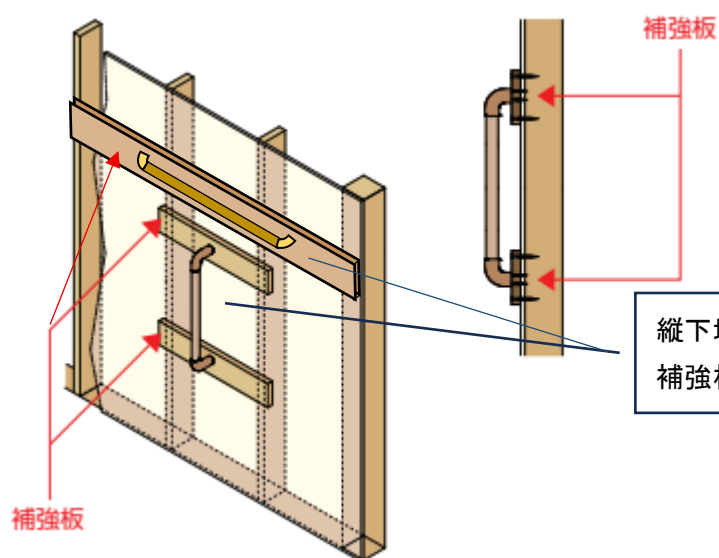
2. 大壁の場合

＜下地が縦(柱、間柱)の場合＞



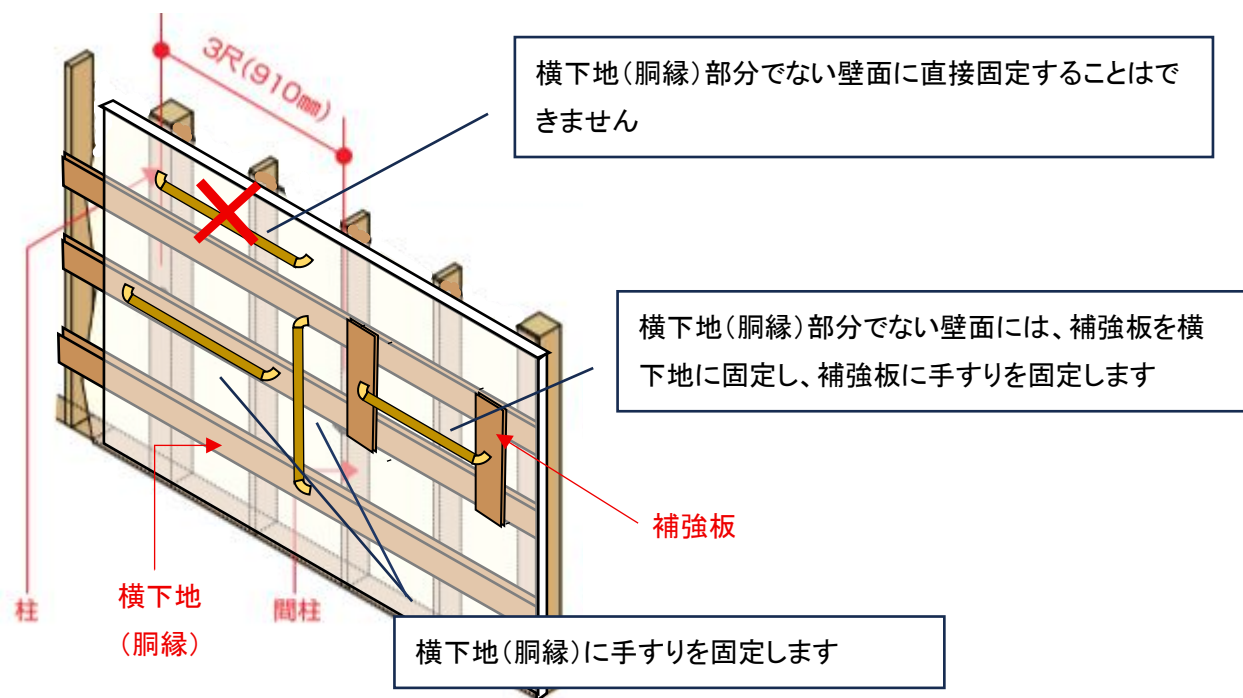
柱や間柱に手すりを固定します

縦下地(柱や間柱)部分でない壁面に直接固定することはできません



縦下地(柱や間柱)部分でない壁面に固定する場合は補強板を縦下地に固定し、手すりを補強板に固定します

＜下地が横(胴縁)の場合＞



補足: 下地の探し方



壁の内部の柱や間柱(まばしら)は原則としてその中心線が 455mm の間隔で入れられているので、見えている柱を基準として測る方法や、壁に隠れた柱などを探知する壁裏(かべうら)センサー、細い針で壁を貫通させ裏を探る道具などを利用して柱や間柱の位置を調べます。



手すりのご相談、ご質問などあれば、是非、ご連絡ください。
専門知識を持った相談員が対応させていただきます。

次回は、「浴室手すりについて」です

ご相談やお問い合わせは



TEL 075-221-1112